



RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND

立教英国学院

— 立教大学系属校 創立 1972年 —

No.3

December 2025

同窓生からのメッセージ

1972年に創立した立教英国学院の同窓生は約3,000人となりました。本校の教育を受けた同窓生の活躍を紹介し、彼らから自身の経験と、後輩へのメッセージをお届けするこのパンフレットも3号となります。今回は1期生でもあり、40年にわたり、立教英国学院の教員として勤務されている奥野卓也先生から、寄稿していただきましたので1面でご紹介致します。

奥野 卓也（1期生）

（以下、敬称略）

1975年、父親の転勤で、中3の秋にアメリカからロンドンに移動。立教英国学院中学部3年に編入、中学部・高等部第一期卒業。国際基督教大学卒業後、1984年立教英国学院に奉職、2019年4月から2025年3月まで副校長。その間、コロナ対応、オフステッド対策などに従事した。昨年、ロンドンに住む娘に孫娘を授かった。

立教英国学院で見た幻、そして今見る夢

— 第1期生として、教員として —

海運会社に勤めていた父の転勤で、私は中学2年の夏にニューヨークへ、そしてその翌年ロンドンへ渡りました。当時、イギリスには日本の教育を受けられる日本人学校は存在せず、海外駐在者の子どもたちはそれぞれ苦労して学びの場を探していました。そんな折、立教英国学院に中学部があると知り、ロンドンから1時間以上かけて学校を見に行っただのが最初の出会いでした。森の中に佇む洋館のような校舎を見上げながら、ここでの新しい生活を想像したのを覚えています。

中学3年の2学期に転入を検討していた時、在校生の多くは冬に帰国し高校受験をするという話を聞き、「それでは入学しても意味がないのでは」と思いました。しかし、当時教頭だった宇宿先生が父にこう言われたのです。「もし息子さんが入学してくれば、高校を作ります。」

それを聞いた父は即座に「では、お世話になります」と答えました。駐在のタイミングで中学生の息子をアメリカ・イギリスへと連れてきた父こそ、選択肢の少なさとその重みを一番理解していたのだと思います。ああ、この学校に来るのだな、とその時に感じました。

こうして始まった立教英国学院の高等部1年。男子3人、女子2人のわずか5人でした。

けれども最初の5人のうち、最後まで高等部を卒業したのは私ひとりだけでした。親御さんの帰任に際し、帰国して日本の高校へ編入する4人の友人たちを見送りました。

しかし、海外駐在者の増加に伴い高等部の需要が増え、途中から次々に同級生が加わり、卒業時には10人になっていました。同級生、後輩と寝食を共にする高校生活の時間は何よりの宝です。部活動、生徒会活動、オープンデイといろんな活動を楽しみました。

1977年、エリザベス女王のシルバージュビリー（即位25周年）を祝う地域のお祭りに参加し、同級生や後輩とバンド演奏をしたことをよく覚えています。その際、立教生が制作したエリザベス女王とフィリップ殿下、昭和天皇と皇后陛下の大きな切り絵をバッキンガム宮殿に寄贈し、後日、生徒会長だった私宛に感謝の手紙が届きました。小さな学校から世界とつながった実感があった出来事でした。

学年が上がるにつれ、小学生たちとも親しくなりました。放課後になると、彼らはよく私たちの部屋に遊びに来て、ベッドの上で飛び跳ねていました。小学生寮が校門横のロッジにあり、寝る時間まで帰らなかったのです。今思えば、彼らにとって上級生の部屋は少し年上の兄のような安心の場だったのでしょう。

生徒だけでなく先生方とも深い絆がありました。若い学校を支える仲間として認めていただき、学生でありながらスタッフ見習いのよ



1977年スタッフサッカーチーム
後列左から3人目（左端は棟近元校長）



近況（お孫さんと）

うに先生方の仕事を手伝いました。当時の先生方は授業だけでなく、学校運営に必要なあらゆることを自ら行っておられました。日曜の早朝に起こされ、若手の先生方と共に朝市のアンティーク市へ家具を買いに行き、ミニバスに積み込んだことも懐かしい思い出です。

高校1年の始めのころ、私たちは大学入学資格検定を受けて大学を受験することを想定していました。しかし、先生方や日本の縣先生、理事会、後援会の方々のご尽力により、私が高校3年のときに立教英国学院は正式に「日本の在外教育施設の高校」として認定され、大学受験資格を得ました。1979年1月、共通一次試験が始まり、会場で高校コードの一覧に「在外教育施設」という高校コードが印刷されているのを見たとき、胸が熱くなりました。在外教育施設は立教英国学院だけで、共通一次試験を受ける自分だけのためにそのコードが存在しているような感覚、あの瞬間、学校が本当に“高校”として認められたのだと実感しました。

高等部第一期生として、仲間と共に学校の成長を間近で見守り、支えられたことは、私の人生の中でもかけがえのない時間でした。

聖書の使徒行伝にはこうあります。

「若者は幻を見、老人は夢を見る。」

若者は未来のビジョンを、老人は希望の夢を見るという意味です。

日本で浪人生活を経て入学した国際基督教大学(ICU)の寮でも、私はイギリスで見た“幻”をさらに膨らませていきました。そして、母校の教員として戻り、以来40年を越える年月をここで過ごしてきました。多くの生徒たち、先生方、英国人スタッフとの出会いに恵まれ、在学時代と変わらぬ充実した日々を送っています。

担任として教室で過ごした時間、授業で真剣に学ぶ姿、ゲームで盛り上がった笑顔、少人数での展示や劇、サッカーをした日々、丘を歩いたこと、駐車場に寝転んで見たアンドロメダ座—40年の教員生活の思い出は到底書き尽くせません。

そろそろ「夢を見る」時期になっているのかもしれませんが。今見ているものが夢なのか幻なのか、今日も生徒たちの声を聞いています。

中本 洋一（1期生）

運輸省(当時)航空大学校卒、日本航空入社、1997年機長昇格、B747-400、B777、B787など主に国際線を担当。ライン教官、乗員部主席、査察操縦士などを歴任、総飛行時間22,000時間。サッカー日本代表チャーター便を十数回担当、必勝機長として2010年サッカーワールドカップチャーター便を担当、初のベスト16入りを支える。今年8月で65歳になり退職、現在はシュミレーター教官として後進の指導を担当。



開校時の全生徒、教職員スタッフ
中央白シャツがご本人



サッカー日本代表岡田監督(当時)と



同窓会(2025.3)にてご本人は右端

memories

立教英国学院開校時は生徒19名、生徒、先生たちも全員同じ一つの建物で生活していました。当時の縣校長をはじめ先生方には勉強面だけではなく、生活面や規律など現在の自分の人生形成の礎になった場所だと思っています。

当時の一番の楽しみはやはりサッカー、学校ではもちろん、夏休みなどでロンドンの実家に帰ってもヘンドンパークに集まってサッカーやって遊んでいました。ゲームもサッカーゲーム、Subbuteoが流行っていました。

message

夢はありますか？何の仕事をやりたいですか？それをかなえるための環境がそろっているのが立教英国学院だと思います。“後悔先に立たず”結果は数十年後にしか出ませんが、将来のためにも今の時間を無駄にせず未来の自分に向かって走ってください。また、一緒に寮で過ごした友人は一生大切な友人です。仲の良い友人をたくさん持つことも、今後楽しい人生を過ごすための条件だと思っています。同窓会で皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

辻 政弘（1期生）

上智大学 Balyasny Asset Management 金融商品取引業のコンプライアンス業務。東京証券取引所、モルガンスタンレー、JP モルガン、みずほ証券等の証券会社でのコンプライアンスを担い、現在はアセットマネジメント会社のコンプライアンスを担当。立教英国学院同窓会長。



2010年、ご両親の金婚式の旅行の
際の来校(左から2人目)



仕事の傍ら、地元消防団で活躍

memories

1972年の開校時、小学6年に入学し、中学1年までの2年間を過ごしました。数々の思い出の中でも印象深いのは、「飛行機破壊事件」です。

「おふざけ」だったのですが、何かの理由で同級生のI君がドアストッパーでN君の作った飛行機のプラモデルを、呪文のような言葉を唱えながら楽しそうに叩き壊したことがありました。被害者のN君は、それをバネに後に国際線のパイロットとして、サッカー日本代表に勝利をもたらす「無敗機長」の異名を取るまで大成しました。

message

町を歩けば、指を差されて人種差別的な言動を浴びるような時代でした。英語で言い返すことも出来ず、悔しい思いをしました。英語が上達しないまま帰国し、周囲からは「帰国子女」と見られるのに耐えられず、必死に英語の勉強をしました。「人種差別した奴等と英語で喧嘩出来るようになるんだ」という気持ちで学び、長年外資系の証券会社で英語を使って仕事をしていましたが、幸い喧嘩の道具として使うことなく、皆さんと仲良く過ごしてきました。逆境をバネにして、そこから自身の武器を生み出すことが、人生を豊かにしてくれると思います。

可児 行夫（4期生）

1986年 青山学院大学経済学部卒、1994年 米国コロンビア大学院 MBA 卒、株式会社 JERA

2023年、JERA の Global CEO 兼会長に就任。世界最大の LNG 買主であり日本の電力の3分を1を供給。長年 LNG 事業に携わり、2015年、東京電力株式会社常務執行役に就任。JERA 設立に携わり現職に。この夏に世界第5位の洋上風力の合併会社をロンドンに設立。ロンドン出張の際は立教英国や東先生夫妻を訪問。



右端がご本人



CERA Week 国際エネルギー会議の壇上にて

memories

小6から中学3年生まで在籍。小6は浦山先生、中学は東先生が担任で、関谷校長から宇宿校長夫妻の時代でした。少し大人の兄貴分といった若い先生が多く、伸び伸びイタズラばかりを。森に秘密基地をつくりお菓子を隠し、遠くの池で魚を釣り、茂みで雉を捕獲。乗馬やサッカー、大規模な夕食後のドロ警。狂言の「附子」を地域に披露。皆でサッカー場の整備をしたのも楽しい思い出に。先生やスタッフ、また多くの関係者や母親達のボランティアの支えがあったのだと、改めて心から感謝です。

message

寮生活は「和して同ぜず」という心を育て、大切な仲間をつくることができます。また、transformational leader になる訓練ができます。目の前の小さなことを仲間と協力して改革する。その繰り返しで社会を良くしていく。最初は何でもいい。秘密基地は、会社を変革するのに似ています。楽しそうなストーリーを語り、仲間を動かし、ジメジメした森に出かけて、木の上に小屋をつくる。周りを巻き込んで何かをやる。イタズラでもいい。それが社会に出て一番役に立つんですよ。

御手洗 大祐（13期生）

横浜国立大学 教育学部卒、rakumo 株式会社（東証グロース上場、証券コード4060）取締役会長（創業者）。米 Google 社や salesforce.com 社のクラウドサービスの機能を拡張し、企業のクラウド導入を促進するクラウド型グループウェアを提供する rakumo 社を2004年に創業。2025年3月に代表を退任し、現在は後進の指導、経営支援を行う。

（経歴）

'96年 NTTに入社後、約3年に渡り企業間取引システムに関する米国ベンチャーとの共同開発に携わる。その後 Web サービス企業の創業、同社の米オンラインメディア企業 CNET Networks 社への売却を経て、同社日本法人の代表に就任。2004年には rakumo 株式会社（旧株式会社日本技芸）を設立し、Google Workspace や SalesCloud と連携した法人向けグループウェア SaaS である rakumo シリーズの提供をはじめとして、企業・団体の労働生産性向上に資する各種 IT サービスを提供している。他に株式会社アイスタイル社外取締役（2013年9月に退任）、長野県本人確認情報保護審議会審議委員（2007年12月に任期満了）等を歴任



向かって右端の立教のトレーナーを着ている円メガネがご本人



左側がご本人



一番手前、黒Tシャツがご本人

memories

当時は物足りないと思っていた静かで落ち着いた環境の中で打ち込んだ様々なことを思い出します。当時の音楽室の脇で徹夜で当時の仲間と打ち込んだ Open Day の看板作りや、今はないと聞く30人ドミトリーでの深夜のたわいのない、でも徒然に続く会話、ウィンブルドン観戦、朝の準備とラジオ体操、現地校との交流試合も盛り上がったバスケットボール部の活動など、思えば日本では得られない贅沢な環境で大事な高校3年間を過ごさせていただきました。

message

海外で様々な人と交流したり、勉強や運動、様々な行事を友人と一緒に取り組んで何かを成し遂げることで、その後の自分の中心となる考え方や精神性を作り上げることができたのは、思えばとても貴重な経験でした。その後の起業や会社経営にもとても生かされたと思っています。益々世界が内向きになる中、立教英国で学ぶ皆さんのような人材は、世界の様々なシーンで活躍が期待されると思いますので、自信をもって目の前の学生生活にひたむきに取り組み、自己の研鑽に努めてください。

長尾 美紀（15期生）

名古屋大学医学部・同大学院修了、京都大学大学院医学研究科 臨床病態検査学 教授

京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部 部長、同 細胞療法センター センター長

京都大学医学部附属病院において、感染症科医・臨床検査医として感染症および臨床検査のチームを率いている。また細胞療法センターでは、iPS 細胞をはじめとする多様な細胞に関する基礎研究の成果を先進医療として実装する取り組みも行っている。学部生の頃より国際保健に関心をもち、縁あって微生物学の研究を始めたことが、現在のキャリアの原点となっている。微生物というミクロの世界から社会全体を見渡すマクロの視点までを重視し、「感染症で困ることのない社会」の実現を目指している。



宇宿先生から立教英国学院生へのメッセージ



京大病院 中央検査部にて

memories

中学1年の2学期から高校3年までお世話になりました。世界各地から集まった仲間と共に学び、語り、そしてそれぞれの国へ帰っていく日々は、言葉にできない深い余韻として残っています。いまでも目を閉じると、教室やドミトリーの窓から見える一面の緑の風景と香りが思い出されます。良いことも大変だったこともたくさんありましたが、そのどれもが今の自分の血となり肉となっています。先生方、そしてともに立教時代を過ごした仲間たちと、このような環境で育ててくれた両親への感謝の思いは尽きません。

※ 長尾さんは京都大学の125人の研究者の一人に選ばれ、ビジュアルブック2024に掲載されました。（105 ページ）
https://my.ebook5.net/kyoto-u/visual_book2024_jp/

message

私自身、立教生だった頃に描いていた夢と、今の自分の立ち位置は必ずしも重なるものではありません。けれども、人にはそれぞれ社会から求められる役割があり、それに呼応してしなやかに生きていく力こそが大切だと感じています。その力は、立教英国学院のような環境でこそ育まれていくのではないのでしょうか。

コロナ禍が教えてくれた大きなことのひとつに、「人と人との緩いつながり」の尊さがあります。世界中に広がる立教英国の同窓生の輪へ、ようこそ。

立教英国学院レポート

立教英国学院より近況のご報告です。ブルーベル基金は皆様の温かいご支援のおかげで順調に進んでいます。今後とも変わらぬご協力をお願い申し上げます。現在建設中の新男子寮は天候にも恵まれ、防水フェルトの敷設やソーラーパネル、屋根瓦の設置が始まりました。今年中には窓枠の設置も予定されており、完成に向けて着実に進行中です。

9月にトラファルガー広場で開催された「Japan 祭り」では、生徒たちがソーラン節や書道パフォーマンスを披露し、5万人を超える来場者の前で堂々とした姿を見せました。各パフォーマンス後の生徒によるスピーチも多くの方々に感動を与え、本校の伝統がしっかりと受け継がれていることを実感しました。

また、1ヶ月後のオープンデーでは雨天にもかかわらず900名以上のお客様を迎え、生徒たちがクラス企画やコンサートを通じて本校の魅力と日本の素晴らしさを力強く伝えました。

3月の同窓会で皆様にお会いできることを楽しみにしています。（岡野校長より）



ブルーベル募金状況報告とご支援のお願い

2025年9月末時点ブルーベル募金の状況：103件、51,072,108円
 皆様から多大なるご支援を賜り、9月末時点で目標額の5千万円を超える寄附金が寄せられました。この場をお借りし、改めて深く感謝申し上げます。
 55周年に向けて、引き続きご支援のほど、よろしくお願いします。



〔英国〕 RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND
 Guildford Road, Rudgwick, West Sussex RH12 3BE U.K.
 Tel: +44-(0)1403-822107 E-mail: eikoku@rikkyo.co.uk

〔日本〕 立教英国学院東京事務所
 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教学院内
 Tel / Fax: (03)3985-2785 E-mail: tokyo@rikkyo.co.uk